

**0～16歳までの子ども2,618人の親に聞いた「子どもの花粉症」調査結果**

**こどもの3人に1人が花粉症?! PM2.5との関連は?!  
「子どもの花粉症」は3年で25.7%→33.4%へ増加、低年齢化も。  
トラックが通る道、一戸建て・住環境と花粉症の関係を研究**

ロート製薬株式会社（本社：大阪市／社長：吉野俊昭）は、2015年11月、花粉症対策への啓発を目的に、0～16歳の子どもを持つ親を対象とした「子どもの花粉症」アンケート調査を実施しました。このうち回答をいただいた1,589人の子ども2,618人の症状や実態等について、集計・分析を行いましたので、小児アレルギー専門医の見解と合わせてご報告します。

**【調査結果のポイント】**

■「子どもが花粉症だと思う」は、2012年25.7%→2015年33.4%へ増加。

0歳～16歳の子どもを持つ親が「花粉症である」と実感している子どもは33.4%という結果になりました。2012年に行った同様のアンケートでは花粉症の子どもは25.7%で、以降は右肩上がりに増加しており年々増えていることが分かりました。（※医師の診断ではなく親の実感によるものです。）

■発症の低年齢化は、今年も継続。5歳までに45.5%が花粉症の発症を実感している。

子どもの花粉症を実感している親にその発症年齢を聞いたところ、0歳から5歳までが45.5%、0歳から10歳までが82.3%という結果で、過去3年の調査と比較すると、花粉症の発症年齢の低年齢化がうかがえます。

■子どもの「花粉症」は、「アトピー性皮膚炎」の約3倍以上。

父母が実感する子どものアレルギー症状について聞いたところ、「花粉症」（33.4%）、「通年性アレルギー性鼻炎」（24.3%）、「アトピー性皮膚炎」（10.4%）、「喘息」（8.7%）という結果になりました。「花粉症」は、「アトピー性皮膚炎」に悩む子どもの割合と比べると約3倍以上になりました。

■花粉症の子どもが多い住環境は「一戸建」。さらに、「トラックがよく通る坂道・一戸建」では、花粉症の子どもの割合が38.2%に上昇。PM2.5の関係も示唆。

住環境別に花粉症の子どもの割合を比較したところ、最も多かったのは「一戸建」の35.2%、次いで「7階以上」の高層階に暮らす子どもで32.4%となりました。さらに、「トラックがよく通る坂道で一戸建」では38.2%と花粉症の割合が大変高くなりました。

統計上、有意差まではみられませんでした。小児アレルギーの専門医の考察によると、これは、ディーゼル粒子に含まれるPM2.5の影響が考えられます。ディーゼル粒子、PM2.5などの微粒子や黄砂は、花粉のアレルギー反応を強める「アジュバント効果」※を引き起こすと考えられています。花粉の季節のみならず、PM2.5濃度の高い日や黄砂が多い日には、マスク等で予防することが大切です。

※「アジュバント効果」・・・アジュバントとは、免疫学において、抗原性（アレルギー性）を高める物質を意味し、「アジュバント効果」とは免疫反応（アレルギー反応）を高める効果を意味します。

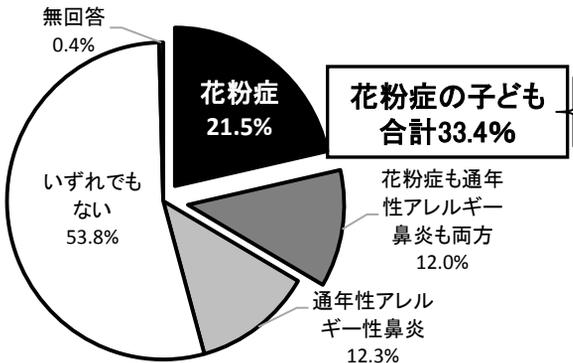
# 調査結果

## 1) 「子どもが花粉症だと思う」は、2012年25.7%→2015年33.4%と年々増加。

0歳～16歳の子どもの親1,589人の子ども2,618人のうち、「花粉症である」と親が実感している子どもは33.4%（「花粉症」＋「花粉症も通年性アレルギー性鼻炎も両方」）という結果になりました。

2012年に行った同様のアンケートでは花粉症の子どもは25.7%、以降は右肩上がりに増加しており、親が花粉症であると実感している子ども数は、年々増えていることが分かりました。

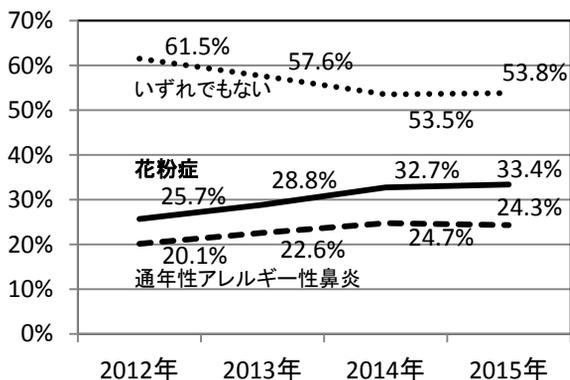
問) お子様は花粉症だと思いますか？ N=2,618



項目	人数	構成比
花粉症	562	21.5%
花粉症も通年性アレルギー性鼻炎も両方	313	12.0%
通年性アレルギー性鼻炎	323	12.3%
いずれでもない	1409	53.8%
無回答	11	0.4%
総合計	2,618	100.0%

※医師の診断ではなく親の実感によるものです。

## ■花粉症・通年性アレルギー性鼻炎の子ども 経年変化 (2012～2015年)



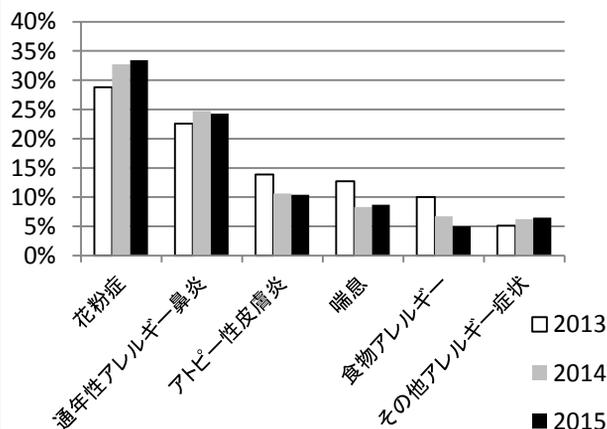
項目	2012年 N=4,371	2013年 N=3,475	2014年 N=2,452	2015年 N=2,618
花粉症	25.7%	28.8%	32.7%	33.4%
通年性アレルギー性鼻炎	20.1%	22.6%	24.7%	24.3%
いずれでもない	61.5%	57.6%	53.5%	53.8%
無回答	0.0%	0.3%	0.0%	0.4%

※医師の診断ではなく親の実感によるものです。

## 2) 「子どもの花粉症」は、アトピー性皮膚炎の約3倍以上。他のアレルギー症状を引き離してトップに。

現在子どもが該当すると思う症状について聞いたところ、「花粉症」33.4%に対して、「アトピー性皮膚炎」は10.4%という結果になりました。花粉症はアトピー性皮膚炎の子どもの割合と比べると約3倍以上となりました。

## ■現在該当するアレルギー症状 複数回答可



項目	2013年	2014年	2015年
花粉症	28.8%	32.7%	33.4%
通年性アレルギー性鼻炎	22.6%	24.7%	24.3%
アトピー性皮膚炎	13.9%	10.6%	10.4%
喘息	12.7%	8.3%	8.7%
食物アレルギー	10.0%	6.7%	5.0%
その他アレルギー症状	5.1%	6.2%	6.5%

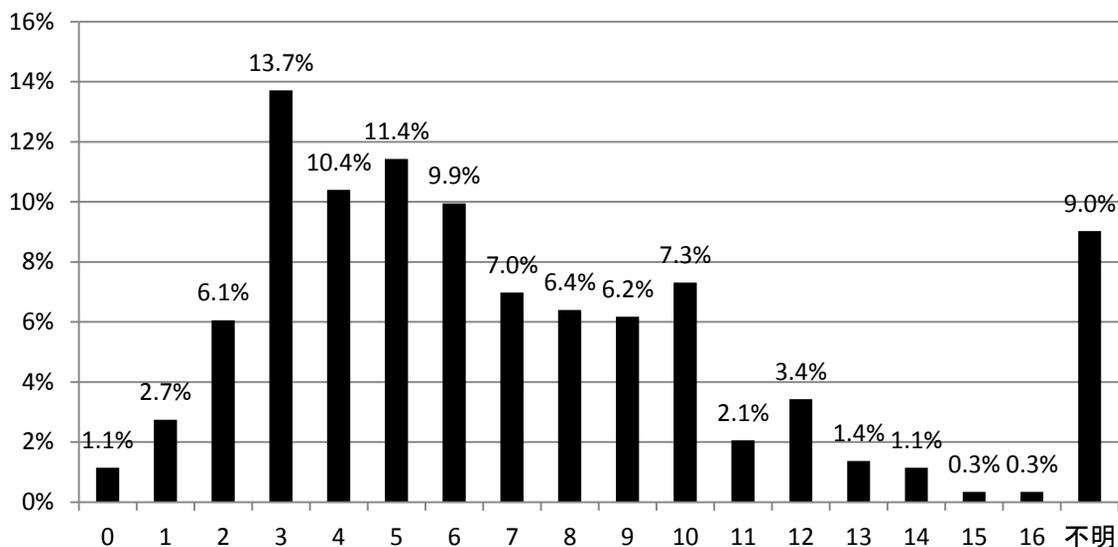
※医師の診断ではなく親の実感によるものです。

## 調査結果

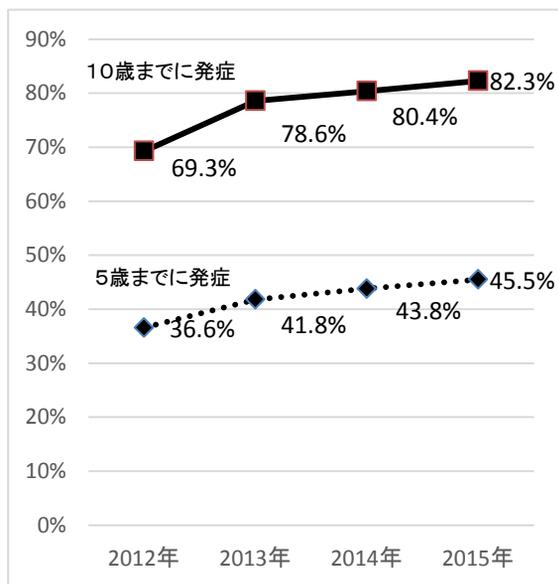
### 3) 「子どもが花粉症だと思う」と答えた人に、発症したと思われる年齢を聞いたところ 5歳までに発症した子どもは45.5%。10歳までに発症した子どもは82.3%。

自分の子どもの花粉症を実感している親にその発症年齢を聞いたところ、0歳から5歳までが45.5%、0歳から10歳までが82.3%という結果で、過去3年の調査と比較すると、花粉症発症の実感が低年齢化傾向にあるようです。

問) お子様は何歳で花粉症を発症したと思いますか？(「お子様は花粉症だと思う」と答えた方のみ回答) N=875



#### 花粉症の発症年齢の変化(2012～2015年)



	2012年 N=1,122	2013年 N=1,002	2014年 N=803	2015年 N=875
0歳	2.2%	2.1%	1.0%	1.1%
1歳	2.3%	2.5%	3.1%	2.7%
2歳	2.7%	5.5%	6.5%	6.1%
3歳	10.4%	11.0%	12.3%	13.7%
4歳	8.3%	8.3%	8.6%	10.4%
5歳	10.7%	12.5%	12.3%	11.4%
<b>5歳までに発症</b>	<b>36.6%</b>	<b>41.8%</b>	<b>43.8%</b>	<b>45.5%</b>
6歳	8.9%	10.5%	9.3%	9.9%
7歳	6.4%	7.0%	7.8%	7.0%
8歳	5.5%	5.0%	5.5%	6.4%
9歳	3.3%	4.8%	4.6%	6.2%
10歳	8.5%	9.6%	9.3%	7.3%
<b>10歳までに発症</b>	<b>69.3%</b>	<b>78.6%</b>	<b>80.4%</b>	<b>82.3%</b>
11歳	2.9%	3.3%	2.2%	2.1%
12歳	3.3%	3.3%	2.9%	3.4%
13歳	2.4%	1.8%	2.1%	1.4%
14歳	1.0%	0.8%	1.1%	1.1%
15歳	0.6%	0.7%	0.4%	0.3%
16歳	0.2%	0.0%	0.0%	0.3%
不明	20.3%	11.5%	10.8%	9.0%
総計	100%	100%	100%	100%

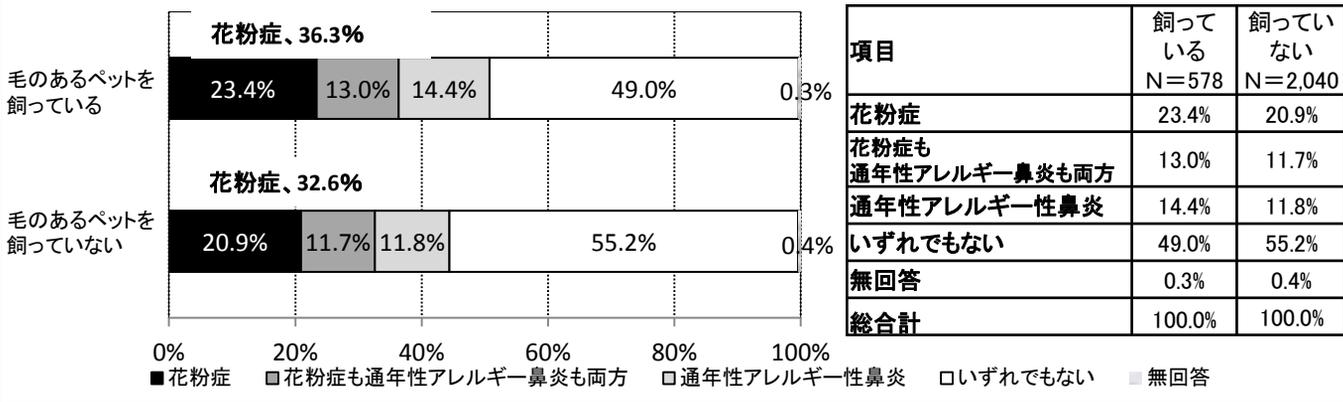
※医師の診断ではなく親の実感によるものです。

# 調査結果

## 4) 毛のあるペットを飼っている家庭の子どもの方が花粉症が多い。

毛のあるペットを飼っている家庭、飼っていない家庭の子どもの花粉症の実感をそれぞれ調べたところ、毛のあるペットを飼っている家の花粉症の子どもの割合は36.3%となり飼っていない家の子どもの花粉症32.6%を大きく上回る結果となりました。

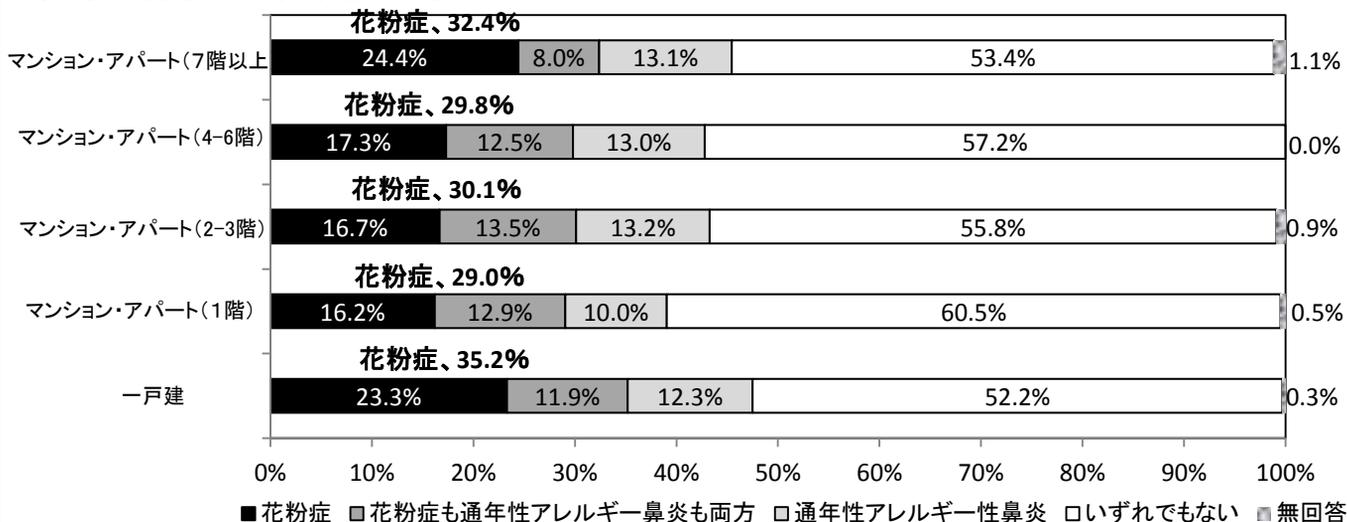
問)生活されている環境についてお聞きします。毛のあるペットを飼われていますか？ N=2,618  
(それぞれに質問) お子様は花粉症だと思いますか？



## 5) 花粉症の子どもの多い住環境は、一戸建て、次いで7階以上の高層の集合住宅。

住環境別に花粉症の子どもの割合を比較したところ、最も多かったのは一戸建ての35.2%、次いで7階以上の高層階に暮らす子どもで32.4%となりました。専門医の考察によると、アレルギーを起しやすいと言われるディーゼルエンジンの排気ガスを吸い込みやすい一戸建、また都会で土が少ないと考えられるマンション高層階では花粉が舞いやすく、花粉症を発症しやすい環境だと考えられます。

問)生活されている環境についてお聞きします。家の環境を教えてください。 N=2,618  
(それぞれに質問) お子様は花粉症だと思いますか？

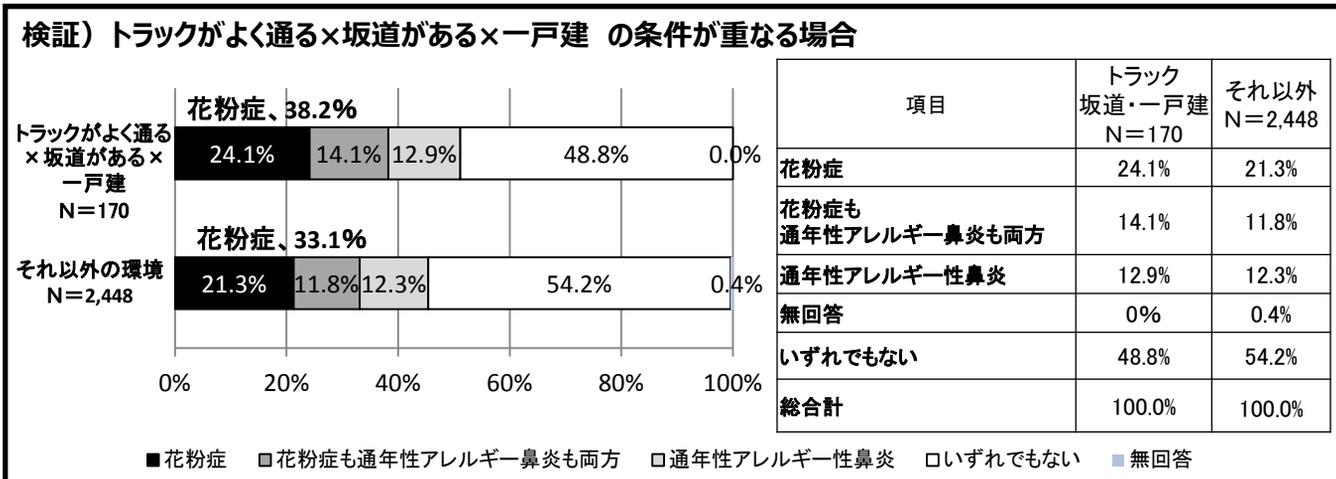
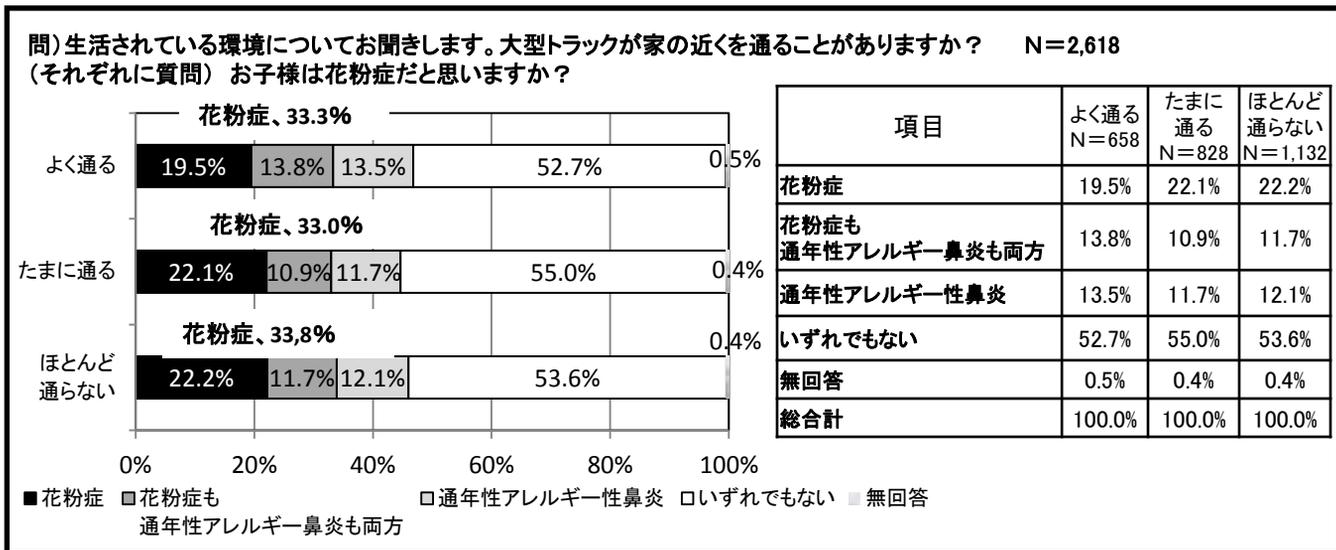
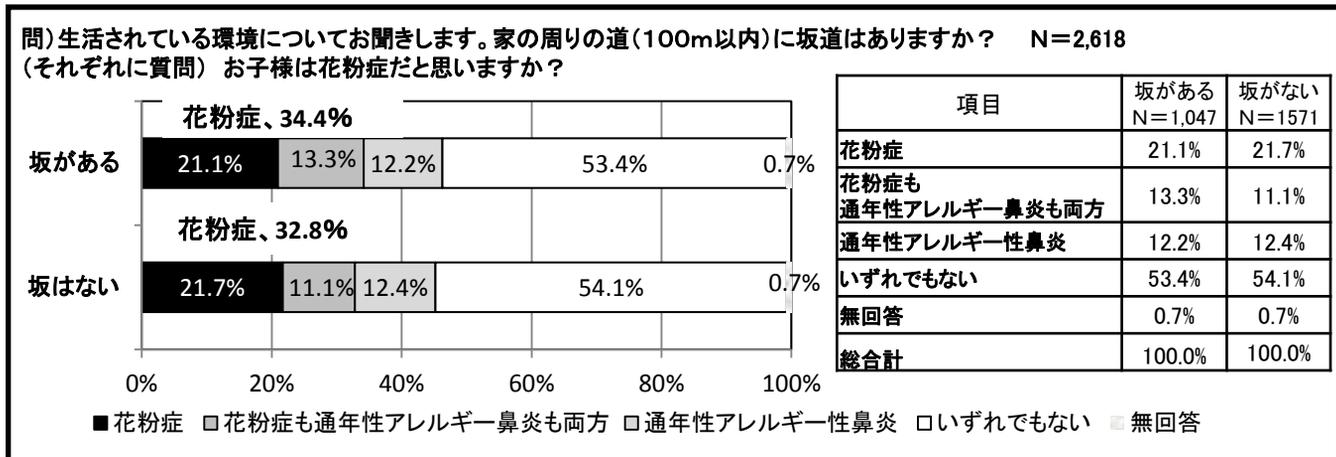


	一戸建て N=1682		マンション・アパート (1階) N=210		マンション・アパート (2~3階) N=342		マンション・アパート (4~6階) N=208		マンション・アパート (7階以上) N=176	
花粉症	392	23.3%	34	16.2%	57	16.7%	36	17.3%	43	24.4%
花粉症も通年性アレルギー性鼻炎も両方	200	11.9%	27	12.9%	46	13.5%	26	12.5%	14	8.0%
通年性アレルギー性鼻炎	207	12.3%	21	10.0%	45	13.2%	27	13.0%	23	13.1%
いずれでもない	878	52.2%	127	60.5%	191	55.8%	119	57.2%	94	53.4%
無回答	5	0.3%	1	0.5%	3	0.9%	0	0.0%	2	1.1%
総合計	1682	100.0%	210	100.0%	342	100.0%	208	100.0%	176	100.0%

# 調査結果

## 6) 「トラックがよく通る坂道で一戸建」では38.2%の子どもが花粉症に。

「家の周りに坂がある」環境では花粉症の子どもは34.4%で全体より高くなり、「大型トラックがよく通る」環境では33.3%で、全体とほぼ同等となりました。しかし、「トラックがよく通る坂道で一戸建」では38.2%と花粉症の割合が大変高くなりました。



今回のアンケート調査結果をもとに、小児アレルギーの専門医の立場から、見解とアドバイスを頂きました。



**末廣 豊 (すえひろ ゆたか) 医師**  
大阪府済生会中津病院小児科 免疫・アレルギーセンター  
日本小児アレルギー学会評議員・理事

### ◆ 子供の花粉症患者は年々増加傾向にあり、同時に低年齢化が進んでいます。

**他人から分かりづらい子どもの花粉症は、集中力低下など生活の質への影響が心配。**

近年、花粉症の子どもの数は増加しており、今回の調査でも年々微増していることが分かりました。この傾向は今後も続くと思われます。

花粉症に関する最近の報告を見ると、小児花粉症患者の増加、低年齢化が目立ちます。ご両親がスギ花粉症の場合、理論的には子どもはほぼ100%スギ花粉症になります。花粉症は生命を脅かすことはまずありませんが、**集中力低下など生活の質(QOL)を著しく損ないます。**さらに、小児の花粉症の症状は、鼻水や連続するくしゃみが出るというより、ぼーっとしているなど、**他人からは分かりづらい**という特徴がありますので、お母さんが注意してあげることが大切です。

### ◆ 乳幼児期からの花粉回避、屋内への花粉侵入の予防など、発症予防が大切。

いったん発症した花粉症が自然寛解する可能性は低いと考えられていますので、治療は発症予防として、**乳幼児期から花粉を回避する、屋内への花粉侵入を予防することが大切です。**発症してからは、花粉の飛散時期には花粉情報に注意し、早目からの予防治療が大切です。

また、一戸建てと高層階で花粉症が多いという結果となり、これは花粉との接触機会が多いからだと推察されます。住宅環境によっても、注意をすることが大事になります。

### ◆ PM2.5とアレルギーの関係 「アジュバント効果」。

今回の研究では、住環境に関する調査を行い、トラックが通る道、坂が近くにある環境では花粉症のこどもの数が多い傾向が見られました。統計上の有意差はないものの、今後の注目していく課題としていきたいと思えます。

ディーゼル粒子、PM2.5や黄砂などの微粒子は、花粉のアレルギー反応を強める「アジュバント効果」※を引き起こすと考えられています。花粉の季節のみならず、PM2.5濃度の高い日や黄砂が多い日には、マスク等で予防することが大切です。

※「アジュバント効果」・・・アジュバントとは、免疫学において、抗原性(アレルギー性)を高める物質を意味し、「アジュバント効果」とは、免疫反応(アレルギー反応)を高める効果を意味します。

## 調査設計

- 調査方法 インターネットによるアンケート調査
- 調査目的 小児花粉症の実態を知っていただくことで花粉症対策の啓発に役立てる
- 調査・分析 ロート製薬株式会社
- 対象エリア 全国
- 調査時期 2015年11月5日～11日
- 調査対象 0歳～16歳までの子どもを持つ親  
※調査結果は回答した親の実感によるもので、医師の診察結果による数値ではありません。  
※子どもの人数に応じてそれぞれ回答いただいています。
- サンプル数 1,589名

### 【親のサンプル属性】

	女性	男性	合計
20代	50	0	50
30代	633	0	633
40代	906	0	906
合計	1589	0	1,589

### 【子どものサンプル属性】

年齢	人数	構成比
0歳	66	2.5%
1歳	65	2.5%
2歳	95	3.6%
3歳	108	4.1%
4歳	119	4.5%
5歳	164	6.3%
6歳	183	7.0%
7歳	183	7.0%
8歳	170	6.5%
9歳	177	6.8%
10歳	213	8.1%
11歳	189	7.2%
12歳	185	7.1%
13歳	178	6.8%
14歳	158	6.0%
15歳	179	6.8%
16歳	186	7.1%
合計	2,618	100.0%

性別	件数	構成比
女	1310	50.0%
男	1308	50.0%
合計	2,618	100.0%

## ■子どもの花粉対策 5か条

他人から分かりづらく自分で対策が充分できない子どもの花粉による症状は、お父さんお母さんの注意や普段からの心がけがとても大切です。普段の生活の中で以下の5つを気を付けてください。

- 1) 花粉飛散情報をしっかりとチェックしましょう。
- 2) 屋外では、花粉との接触を避ける工夫をしましょう。(マスクの着用など)
- 3) 屋内に花粉を入れないように工夫しましょう。
- 4) 目に症状が出てしまった場合は、かいて症状が悪化しないように目薬の使用を。
- 5) 子どもの症状は気づきにくいので、サインを見逃さないことも大切です。

## ■子どものための目薬のさし方アドバイス

- ・目薬を点眼する際には、手を洗って清潔にし、まつげやまぶたに触れないように点眼することが大切です。
- ・点眼が苦手な方は、下まぶたを少しひっぱり、「あかんべえ」の状態にして、点眼するのもおすすめです。
- ・自分自身で点眼できないお子様に点眼するには、大人のひざの上などで頭を固定して点眼しましょう。
- ・用法用量を守り、しっかり目の症状を治療しましょう。

## 目薬の正しいさし方

① まず手を洗って清潔に



手に付いた汚れを落とすため、必ず石けんでいねいに洗いましょう。その後、しっかりすすぎます。

② 片手であかんべえをする



顔をしっかり真上に向け、目薬を持っていない方の手で下まぶたを軽く引き下げて、あかんべえの状態にします。

③ まつげやまぶたに触れないように点眼する



あかんべえの状態で目薬の容器の先が、まつげやまぶたに触れないように気をつけて、指定の分量を目にさします。

④ しばらく目を閉じる

...31.32.33...



目薬をさした後は、1分くらい軽く目頭を押さえじっと目を閉じているのが効果的です。それから目のふちや皮膚についた余分な点眼薬をティッシュユ等でふき取って下さい。

小さな子どもにさしてあげる場合は、あお向けに寝かせるのがベスト。お母さんのひざの上なら安心です。



# ROHTO

## ■子どもの花粉対策 オススメの商品

ロート製薬では、1987年に花粉対策目薬「ロート点眼薬アルガード」を発売して以来、四半世紀にわたって花粉症の研究に取り組んできました。近年では、子どもの花粉対策を考えた、目薬、鼻炎用内服薬、マスクなど症状や使用場面に合わせて選んでいただける幅広いアイテムをラインナップしています。

### 点眼薬



第3類医薬品

### ロート アルガード® こどもクリア

お子様の目のことを考えて処方設計した点眼薬。  
なみだに近いpH、防腐剤無添加※、無香料・無着色。

花粉時期などの目のかゆみ・炎症に有効成分がしっかりと効果を発揮します。

また、目のかゆみを考えてさし心地にこだわりました。かゆみを感じている腫を考えた清涼感レベルに設定。  
しみないのに気持ちのいいさし心地です。

### 点眼薬



第3類医薬品

### ロート こどもソフト®

やさしいさし心地にこだわった子ども用目薬。  
防腐剤フリー※処方。目のかゆみ、充血に。  
涙に近いpHでしみないさし心地です。

### 内服薬

錠剤  
タイプ



第2類医薬品

しょうせいりゅうとうじょう

### 新・ロート小青竜湯錠 II

鼻水や水様のたんを伴う咳が出る方の、鼻炎・花粉症に。  
5才から服用できる1日2回タイプの漢方薬。

### ジェル

爽快  
タイプ



マイルド  
タイプ

雑品

### ロート アルガード® 花粉侵入防止ジェル

鼻の外側に薄く塗り広げて花粉の鼻腔内への侵入を防ぐ、“ぬる透明マスク”。  
イオンバリアによる花粉侵入阻止とキトサンによる花粉抑制のダブルの力で花粉対策が出来ます。

### マスク

使いきりタイプ  
個別包装 3枚入り!

かわいい  
シール付き  
(6枚)



雑品

### ママはぐ® こどもマスク

インフルエンザウィルス飛沫カット  
機能つき抗菌フィルターを使用した、  
高機能不織布マスク。  
子ども用の小さめサイズです。

※防腐剤(ベンザルコニウム塩化物、パラベン)を含んでいません。